

介護のこと何でも相談ください

8月から総合病院サポートセンターに ケアマネージャーが常駐します

同仁会グループは、一人ひとりの患者さん、利用者さんの立場に立った医療・介護活動、積極的な連携で地域を支える取り組みをさらに進めようという方針に基づいて、医療介護事業に取り組みんでいます。

介護保険制度はこの16年間改悪を重ね、今では「介護保険は詐欺」とまで言われる始末です。有無を言わず年金から保険料を引き去り、いざ必要になった時には、あれこれ条件や制限をつけ必要なサービスが使えないのが、現在の介護保険サービスです。

そんな介護保険制度の枠の中で、できる限り本人（患者）のニーズに合わせた利用ができるようマネジメントする目的で、今年4月からケアマネージャー（以下、ケアマネ）が週2〜3日出向して総合病院での相談業務をスタートさせました（7月6日現在50件を越す代行申請を実施）。

さらに8月からは、医療と介護の橋渡しを円滑にする機能を、向上させる目的でケアマネを常駐配置します。介護分野の専門的な知識をいかし、入院された患者さん



が安心して自宅に戻るための援助や転院先紹介など、退院サポートチームと連携し業務にあたります。「耳原総合病院で入院できて良かった。退院後も安心だ」と思っていただけのように、介護のことなら何でもお気軽にご相談下さい。



この間の事例から

気持ちがあ すつきりしました

「耳原総合病院は、介護の相談も乗ってくれると聞いて、思い切って来ました」と入院患者さんの妻がサポートセンター窓口に来ました。

「今回の入院はすぐ退院になる予定ですが、もともとあった認知症がすすんだように、退院後が不安なんです」との相談内容で

した。介護保険は未申請とのこと。

介護保険で受けることのできるサービスを説明しながら、妻が以前から抱いていた不安を傾聴しました。今まで誰にも言えなかった不安をケアマネージャーに話し、介護保険申請を決意したことで、「こんなに丁寧に教えて下さって、話を聞いてもらいます」と笑顔を見せました。ありがとうございます。

これからの言葉が、たくさん聞けるように、患者さんの在宅への橋渡し役をしっかり務めていきます。

おまかせ下さい

サポートセンター配属
ケアマネージャー

木原さつき

です！



ケアマネ歴は約10年。6月から同仁会に入職し、法人内の各事業所での研修を終えて、8月から総合病院に常駐します。

2000年から始まった介護保険制度は、本当に複雑な制度になっています。介護保険が使えるのか、どうやって申請すればいいのか教えて欲しい等、お気軽に何でも聞いてください。

患者さんご本人やご家族の思いに寄り添い、ゆっくりお話をうかがう時間を持たせたいと思います。

少しでも不安を軽くできて、良かったと思ってもらえるように頑張ります。

シリーズ 現場からの 視点

その17

ケアマネージャーが 連携機関の調整役

生じます。

暮らし続けるために、多職種が一つの目標に向かって議論し、寄り添うことができた事例です。

医療安全の風土 づくりへ日々研鑽

今回、同仁会グループの3事業所（訪問看護ステーション、ケアプランセンター、薬局）と鳳クリニックで、連携して定期通院を支えているAさんの事例をまとめましたので、紹介します。

定期通院継続には 事業所間の連携が大切

耳原鳳クリニックは、2009年に病院から診療所に移行し、再スタートをきりました。病棟部門は閉じたものの、外来は14科と多くの科が存続し、一日平均200人余りが通院する規模の大きな診療所です。病院時代からの患者さんが、今も継続して受診されています。今年1月の医療介護安全推進月間報告会調べでは、受診者の62%が65歳以上と高齢化がすすみ、独居・高齢世帯・認知症状の現れている方も少なくありません。

住みなれた地域で暮らし続けるために

〈チーム連携で1人の患者さんによりそって〉

Aさんは80代。要介護1で認知症や糖尿病、気管支喘息等の複数疾患があります。外来通院が唯一の外出の機会であり、生活基盤としての通院継続を目標に、法人内で連携してきました。当院に受診を1本化する中で、2015年から5月5〜8回の受診を現在の受診を現在の

外来では、来院時の患者さんやご家族の言動から、なんとなく気になる、いつもと様子が違うなど職員が感じたことを声に出し、発信し、共有するように努めています。

医療安全の風土づくりには、ひとへの思いやりの気持ちが欠かせないと思っています。ルールを決めたりシステムを形づくり、協力しあい、職員ひとりひとりが研鑽していく姿勢が必要だと今回の事例をまとめてみてあらためて実感しています。

定期通院を継続するために、法人内外の医療や介護の事業所と連絡を密にする必要性が

が、4科より処方される多くの薬は薬局が整理、全ての連携機関の調整にはケアマネージャーが関わっています。このような形に落ち着くまで、数年にわたる何度も関係者による会議を重ねてきました。

※この事例については7月16日開催の医療介護安全大会（次号掲載予定）で各事業所より報告されたものです。

